

歴史資料が有する観光的特徴の分析と その活用 ～「梅田日記」を事例として～

堀井 洋[†] 林 正治[†] 堀井美里[†] 沢田史子^{††}
吉田武稔[†]

地域歴史観光分野において歴史資料を題材とした商品の企画を行う際には、「その歴史資料がどのような観光的特徴を、どの程度含んでいるのか？」を具体的に企画者が把握することが必要である。しかし、歴史資料の記述内容を歴史学専門家以外が正確かつ客観的に把握・評価することは、歴史学的な知識や経験などの問題から非常に困難であり、この「歴史資料の難解さ」が歴史資料の活用促進を阻害する一要因となっていた。そこで本論文では、歴史資料に含まれている観光的特徴・要素の客観的な評価について論じる。観光的特徴評価に際しては、現代の観光事情を反映した観光分類を定義して歴史資料中に出現する単語の定義分類を行い、それらがどのように歴史資料中に含まれているか明らかにする。

Historical records analysis for tourism : A case of “Umeda Nikki”.

Hiroshi HORII[†] Masaharu Hayashi[†] Misato HORII[†]
Ayako Sawada^{††} and Taketoshi YOSHIDA[†]

Recently, some history tourism products are proposed and developed in Japan. In development process of history tourism, understanding of historical records by developers themselves in local region is important. In this paper, we proposed an analysis method of historical and touristic characteristics for history tourism.

1. はじめに

昨今、古文書などの歴史資料を活用した地域歴史観光が日本各地で行われており、新しい歴史資料の活用分野として注目されている¹⁾。その背景としては、史跡見学や大学での公開講座などをツアーに取り入れた学習観光の普及、外国人旅行客の増加による日本の文化・歴史への関心の高まりなどが挙げられる。学術情報資源としての歴史資料の価値は従来から社会的に認知されているが、観光・教育など商業分野における活用を推進することにより、歴史資料および歴史学に関する新しい社会的価値の創出が期待される。本論文では、歴史資料の商業的活用対象を歴史観光分野とし、以下に論じる。

観光分野において歴史資料を題材とした旅行商品の企画・開発を行う際には、観光事業者が「その歴史資料がどのような観光的特徴を、どの程度含んでいるのか？」を具体的に開発者が把握することが重要である。地域に現存する歴史資料の内容を十分に理解・解釈し顧客である観光客の嗜好・ニーズとの接点を模索することにより、地域の歴史・文化の魅力を旅行者に訴える歴史観光商品の開発に直結し、地域の歴史が持つ学術的な「深さ」を旅行者が理解・共感することで、リピーター（再入り込み客）の増加とともに、持続可能な地域観光産業の形成が期待される。

しかしながら、歴史観光ツアーの企画・開発に際しては、歴史資料の専門性に起因した課題が存在する。旅行対象地域において旅行商品の素材となり得る歴史的なテーマや話題がどのように存在し、更にそれらが記述された歴史資料の有無を調査・把握することが不可欠であるが、「くずし字」などで記述された歴史資料を解説・理解し、それらの記述を正確かつ客観的に把握・評価することは、歴史学的な知識や経験などを持たない観光事業者にとっては非常に困難である。この「歴史資料の難解さ」が歴史観光ツアーなど歴史資料の商業的活用の停滞を招く一要因となっている。

本研究では、「歴史資料の難解さ」を解消し歴史資料の活用を促進する一方策として、情報技術を利用した歴史資料の観光的特徴の把握とそれに基づいた歴史観光ツアーの企画について、幕末期の歴史資料「梅田日記」を例に述べる。歴史観光ツアーの企画・開発過程における歴史資料の役割を分類し、観光的特徴の把握に際しては、現代の観光事情を反映した観光分類を定義して歴史資料中に出現する単語の定義分類を行い、それらが有する観光的意味および傾向について明らかにする。

[†] 北陸先端科学技術大学院大学 知識科学研究科
School of Knowledge Science, Japan Advanced Institute of Science and Technology

^{††} 金沢星稜大学 総合研究所
Research Institute, Kanazawa Seiryō University

2. 研究の背景

2.1 歴史資料の活用と歴史観光に関する現状

これまで古文書・絵図・木簡などの歴史資料は、大学や博物館などの学術機関において研究資料として蓄積・利用されてきた。学術研究分野、特に近世以降を対象にした歴史研究では、文献史料の整理および分析が研究の主となるために、史料目録の作成とそのデータベース化および Web を利用した史料情報の公開が進んでいる²⁾³⁾。

一方、商業分野においても、地域の歴史・文化を題材とした地域歴史観光が脚光を浴びており、日本各地において歴史観光企画・商品が開発されている。秋田県湯沢・横手地域では、江戸時代の紀行家「菅江真澄」を題材に、彼が歩いたとされる羽州街道などの歴史街道において彼の業績や足跡や訪ねる街道観光が平成 17 年から行われている⁴⁾。歴史上の人物が記した過去の旅行記を基に現在の旅を重ね合わせ、過去・未来同時に二つの旅を味わうこの試みは、当時の歴史文化や風土に対する知的好奇心を満足させる新しい観光（街道観光）のモデルケースの 1 つとなっている。また、滋賀県彦根市では、滋賀大学が中心となって「平成滋賀塾」を開講している⁵⁾。これは、11 日間にわたって滋賀地域の歴史や環境を総合的に学習する企画であり、大学研究者による専門的な講義と地域観光が組み合わせられた新しい歴史観光である。従来の歴史観光には乏しかった学術的な知的好奇心を満足させる要素として、大学研究者が持つ専門性を活用する試みとして興味深い。

これら学術的な要素を取り入れた歴史観光ツアーが開発されている反面、現在商品化されている歴史観光ツアーでは、その内容についての歴史学的な妥当性や真正性を欠いたものが数多く存在する。所謂「○○っぼさ」を全面に演出した歴史観光商品が企画される背景・理由の 1 つとして、開発者である観光事業者が地域の歴史に関する正確かつ詳細な知識が不足しており、魅力ある歴史観光コンテンツを立案することが困難であることが挙げられる。この歴史観光における学術的妥当性に関する問題は、歴史観光が持つ文化教育的效果が低下することからも深刻であり、さらに今後大幅に増加が予想される外国人旅行者に対して、誤った日本文化の解釈を与えることが憂慮される。

本論文では、本問題に対する解決策の 1 つとして、情報技術を活用した歴史資料の観光的特徴の把握を提案する。歴史観光の題材となる歴史資料が有する観光的な特徴を観光事業者が把握・理解することにより、学術的にも妥当性を有した歴史観光商品を開発することが可能となり、より高付加価値な旅行事業の実現が期待される。

2.2 情報技術による特徴情報の抽出

著者らは、これまでメタデータ照合型ネットワーク解析システム MANACO の開発に取り組んできた⁶⁾。医療情報ネットワークが有する医学的特徴の国際疾病分類 ICD10 に基づいた観測を MANACO により行うことにより、特定疾病名を含む医学的特徴の把握を実現した。本研究は、この医療情報の解析技術を基礎として、歴史資料および観光分野へ対応した評価手法を提案する。

一方、文章中から特定の話題（トピックス）を抽出するためのテキストマイニング技術について、多くの研究や実用化が行われてきた。戸田ら⁷⁾は、インターネット上のブログ記事よりトピックを抽出する際に、指定された領域のみに特化し、多視点からトピックを抽出する手法を提案した。この手法では、抽出したトピックに関連したキーワードに対する情報などを活用することにより、ブログ記事群からの多様な視点からのトピック抽出を実現している。古川ら⁸⁾は、ブログ著者が記事を書く前に誰のブログを見ているのかという閲覧情報を用いて語の重要度を計算する手法を提案した。これらの研究は、文章の特徴を抽出する手法を提案している点において、本研究との関連性が高い。また、大内⁹⁾らは、WWW を対象にした北海道関連観光情報の収集・分析・可視化について、情報学的な観点から研究を行った。HTML 言語の構造的に着目し意味的な構造との関連性を明らかにした。しかし、本研究では解析対象が文語により記述された歴史資料であり、語彙表現が現代語と異なる点、さらに観光的特徴という解析者側が興味を有する特定分野に着目し抽出・解析を行う点が、これら従来研究との差異である。

3. 観光分野での歴史資料の活用

3.1 歴史観光ツアーの開発における課題

歴史観光ツアーの企画・開発において、観光事業者による歴史資料の内容把握が求められる状況は、1) 企画初期段階で歴史観光ツアーのテーマ・素材としての歴史的話題の検索段階、2) 歴史観光ツアーの中心的話題が含まれる歴史資料からの観光関連情報の抽出段階、3) 実際の歴史観光ツアー催行における案内・解説の 3 つに大別することができる。歴史観光ツアーの実現プロセスの概要を図 1 に示す。これまで、歴史的話題の検索に際しては、観光事業者が歴史研究者および大学・博物館に対して歴史専門知識の提供を依頼することが一般的であった。しかし、依頼する観光事業者が開発する歴史観光ツアーのイメージやコンセプトを的確に歴史研究者側に伝えることが困難であること、歴史研究者の多くは観光事業に関して知識・関心に乏しい素人であり、歴史観光ツアーの企画内容に対しての助言には限界がある、などの課題が存在する。また、歴史資料からの観光関連情報に抽出におい

では、観光事業者自らが古文書などの歴史資料を解説・把握することが非常に困難であり、時間・費用などの面においても限界がある。これらの課題を克服するためには、歴史研究者と観光事業者との間の連携を密にして相互理解を推進する人的仕組み・組織の構築、および観光事業者など歴史知識に乏しい利用者が歴史資料の内容や特徴を把握することが可能な情報技術の開発が必要である。本論文では、後者の情報技術を利用した歴史資料の内容把握について提案を行う。

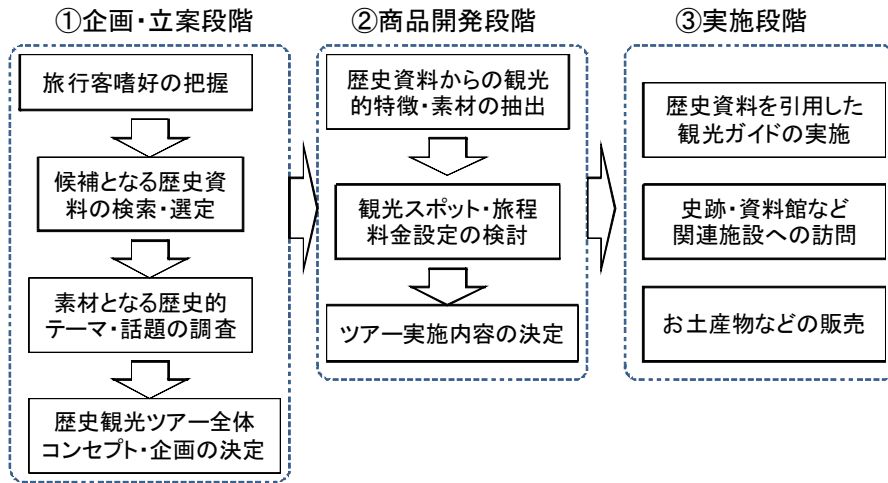


図1：歴史観光ツアーの実現プロセスの概要

3.2 観光事業者のニーズを反映した観光単語分類の定義

観光事業者による歴史資料の内容把握を目的とする場合には、彼らの商業的要求（ニーズ）を反映した分析を実施する必要がある。本研究では、従来の学術的な歴史資料の分析で一般的であった「史料名」「年代」「人物」など学術的情報に加えて観光的な要素を含む語句についても抽出を行う。歴史資料が有する観光的特徴評価の前段階として、資料中の単語を対象とした観光単語分類を定義する。観光単語分類の役割は、現代の観光情報分類と、歴史資料中に登場する単語を関連づけることであり、全国地域観光情報センター「全国旅そうだん」¹⁰⁾に掲載されている情報を基に定義を行い、その構造は、「見る」「イベント」「遊ぶ」「泊まる」「乗り物」「食べる」「買う」「学ぶ」の大分類および中・小分類からなる階層構造となっている。そして、歴史資料中に出現する風物・食品・地名・行事など観光との関連性が高い

と思われる単語を歴史学研究者の監修により88語選定し、定義した観光情報分類に適用する。歴史資料中における単語の出現傾向と観光情報分類でのそれらの位置付けを分析・評価することで、歴史資料に含まれる観光的特徴および歴史資料の観光的意味が明らかとなる。その観光単語分類の一部を表1に示す。

表1 観光単語分類（一部抜粋）

大分類	中分類	小分類	歴史資料単語
見る	施設景観	町並み	愛宕町
見る	施設景観	町並み	主計町
見る	自然景観	河川景観	浅野川
見る	自然景観	河川景観	犀川
見る	自然景観	山岳	医王山
見る	神社仏閣	神社・仏閣	観音院
見る	神社仏閣	神社・仏閣	来教寺
見る	地域風俗・風習	地域風俗	金毘羅様くじ
見る	地域風俗・風習	地域風俗	大根引
見る	地域風俗・風習	地域風俗	糞虫籠
見る	文化史跡	史跡	庚申塚
見る	文化施設	歴史的建造物	壮猶館
イベント	イベント鑑賞	郷土芸能	寺中能
イベント	イベント鑑賞	郷土芸能	芸者
イベント	イベント鑑賞	郷土芸能	観音院神事能
イベント	祭事	行・祭事	報恩講
イベント	祭事	行・祭事	炬燵開き
イベント	祭事	行・祭事	大根引き
遊ぶ	温泉	温泉	山中温泉
遊ぶ	温泉	温泉	栗津温泉
遊ぶ	温泉	温泉	湯涌温泉
食べる	郷土料理	郷土料理	かやくそば
食べる	郷土料理	郷土料理	小鯛
食べる	郷土料理	郷土料理	茶碗蒸し
食べる	郷土料理	菓子・果物	あんころ
食べる	郷土料理	菓子・果物	かい餅
食べる	郷土料理	菓子・果物	舞鶴
食べる	郷土料理店	郷土料理店	鏝屋
食べる	郷土料理店	郷土料理店	和泉屋
食べる	郷土料理店	郷土料理店	一草亭
買う	名産品	ショッピング店	賢心丹
買う	名産品	伝統工芸技術	九谷焼
買う	名産品	伝統工芸技術	山中塗り
学ぶ	体験	文化体験	謡

3.3 歴史資料梅田日記の概要

本研究において歴史観光の題材として扱う歴史資料「梅田日記」(以下、「梅田日記」)¹¹⁾は、元治元年(1864)6月から慶応4年(1868)5月まで、金沢町人能登屋甚三郎(明治4年(1871)以降梅田甚三久と改名)によって書かれた日記である。原本(くずし字で書かれた古文書)の表題は、「日記」または「日記改百々夜草」であるが、通常著者の苗字から「梅田日記」と呼ばれている。表紙の画像を図1に示す。「梅田日記」の特徴は、その内容にある。著者の能登屋甚三郎は、能登口郡番代手伝という、江戸時代の加賀藩において、農政に関する事務処理を担当した役人であった。当時の支配階級である武士ではなく、富裕な商人でもなく、かといってその日の糧にも困窮するような下層民でもなく、いわゆる一般庶民と捉えられるような人々の一人であった。「梅田日記」は、そんな彼が毎日の日常生活を書きつづったもので、現代に生きる私たちが読んでも共感できる部分が多いことが、大変な魅力となっている。よく出てくる記述内容としては、勤務、友人・親戚との飲食や遊び、東山界隈での芸者遊び、謡の教授、寺社参詣、正月等の年中行事、旅、料理、物価等についてである。彼が出かけた場所は、観音院等の寺社や地名が現存し、実際に訪れることができる。さらに、日記を書き始める直前に結婚したばかりという事情もあって、妻しなについての記述が盛んに出てくるのも興味深い。「梅田日記」の一部を口語訳したものを以下に示す。

慶応元年(1865)5月11日

雨やみ曇り、風がとても冷たい

この行列を森本(下)町(金沢市東山・森山のあたり)の清水屋喜助宅で見物。そこから、針屋次右衛門・有松屋弥一郎・新川桑吉と4人で、味噌蔵町(金沢市大手町・兼六元町・橋場町・材木町・尾張町のあたり)から百間堀を通り、本多家下屋敷のあたりを経て、犀川上流の九里覚右衛門様のお屋敷前(新堅町・菊川・幸町あたり)に出た。そこで、桑吉が、今日江戸から帰ってきた縁者・広岡某の家を訪ねるといので別れ、残り3人で、犀川上の一丈橋(桜橋)を渡ってごりやを見歩いた。さて、上のごりやに、鮎(ごり)や鰻(うぐい)を養殖していると言う大池があったので、そこで屋形船に乗りしばし楽しむ。そこから野田寺町・十一屋(金沢市十一屋町・寺町のあたり)へ行き、草花屋で草花を見物。その後、寺町の鏝屋(鏝甚)へ行き、宴会となった。メニューは次の通り。

煎茶、煙草盆、1鉢[鱸(キス)、木瓜(ぼけ)の細切、海素麵(海藻)], 1鉢[くじ鯛の煮立], 吸物[鯛], 飯, 汁[すまし, くずし], 煮物[麩, 妻白(春菊), 松露, 鯛] 〆値段は銀20目。さてまた南町の松本屋へ寄って一服。蒸菓子を食べ、麦湯あるいは白湯、または好みによりお茶なども飲み、代銀を払って出る。戻りかけ、犀川で狂談がたくさんあったけれども略す。帰宅は、午前0:00頃となった。(一部抜粋)

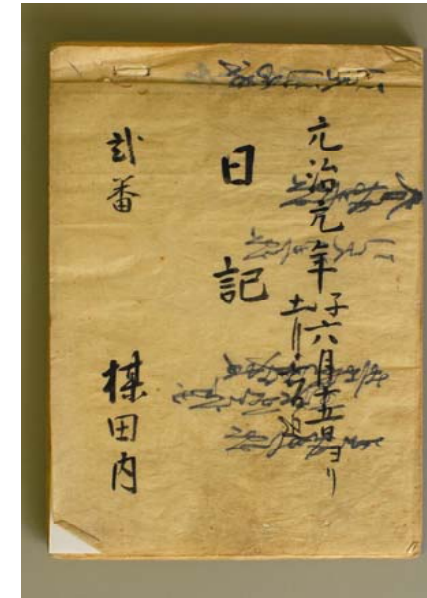


図2 資料名:「日記 式番」

「梅田日記」を事例とした観光的特徴評価を次章において述べる。

4. 歴史資料を対象にした観光的特徴の評価

4.1 歴史資料「梅田日記」が有する観光的特徴の評価

本論文では、「梅田日記」を対象とした観光的特徴評価を以下の2つの観点から実施した。

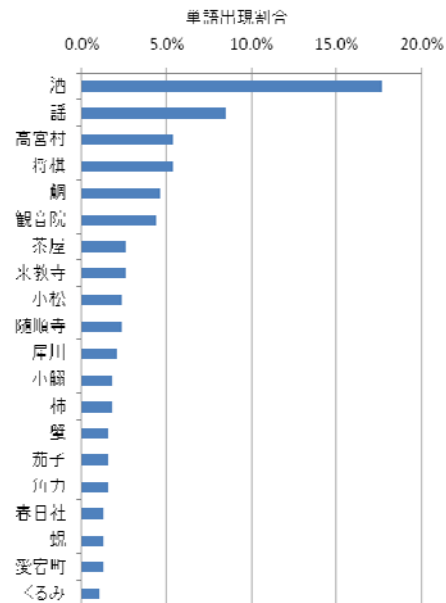


図3 「梅田日記」に登場する観光関連単語の出現割合（上位20語）

4.1.1 歴史資料における観光関連単語の出現傾向

観光関連単語の出現傾向を把握することにより、その歴史資料全体が有する基本的な観光的特徴を明らかにする。これにより、「食に関する話題を多く含んだ歴史資料」のように、歴史資料の観光分野に対する活用可能性・適性を客観的に把握すること可能となる。本研究では、歴史観光単語分類に登録された単語の総出現回数に占める各単語の出現割合とその構成の分析を、全編（元治元年～慶応2年末）を対象に行った。図3は、観光関連単語上位20単語の出現割合であり、図4は、出現単語の大分類における構成である。これらの結果から、「梅田日記」には「酒」などの食に関する観光情報が最も多く含まれていること、さらに寺院や仏閣などの「見る」に関連した観光情報も相当数記述されていることが考察される。食に関する観光関連単語が多数出現していることから、筆者である梅田甚三久は市中での飲食や遊びを日常的に行い、食や遊びに対する関心が高かったことが推測される。また、梅田甚三久が能や謡などの芸能に関心が高く、自身も副業として謡の教授を行っていたことが既に先行研究により明らかになっており、これが「謡」が多く出現している理由であると推測される。

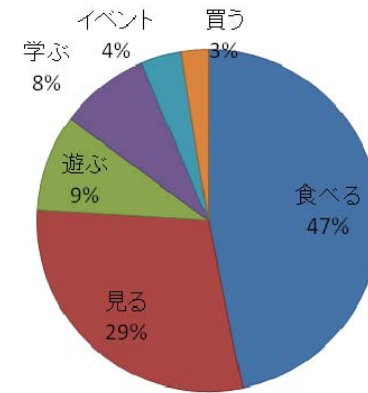


図4 「梅田日記」における観光関連単語の構成

4.1.2 時系列での観光関連単語の出現傾向

歴史観光の企画を行う際には、季節や時期などの時間的な要素が重要であることから、歴史資料に含まれる観光的特徴の時系列での変化を明らかにした。観光的特徴の時系列変化を分析することで、どの時期にどのような行事や出来事が発生したのか、そしてそれがどのような観光的な意味を有するのかについて考察する。時系列における評価を観光企画に活かすことにより、過去の歴史的な行事や祭事を観光参加者が体験する共感型の歴史観光の実現が期待される。本論文では事例として「梅田日記」の記述内容から、元治2年元日から慶応元年6月末日までの6ヶ月間を対象に歴史的特徴の時系列変化を分析した。図5に分析結果を示す。図5において、元治2年2月3日付近に「見る」「食べる」に関する観光関連単語が多く出現しているのは、梅田甚三久はこの時期に越中国高宮村（現在の富山県砺波市）へ謡の教授を行うために出張しているためである。その道中や高宮村において、見物や飲食を行った記述が残されている。また、元治2年3月29日付近で「遊ぶ」「見る」に関連する単語が多く出現しているが、これは那谷寺（石川県小松市）で本尊の十一面千手観音が33年ぶり開帳されるため、梅田甚三久が友人らと共に参詣したことによるものである。那谷寺への参詣では、現在でも温泉地として有名な粟津温泉や山中温泉に宿泊しており、温泉や食事・土産としての菓子などに関する記述が多数出現する。さらに、慶応元年五月十一日には、「イベント」「見る」に関連した単語が出現しているが、この日は加賀藩主前田斉泰が江戸から帰国しており、その行列を見物に行った記述が残されている。

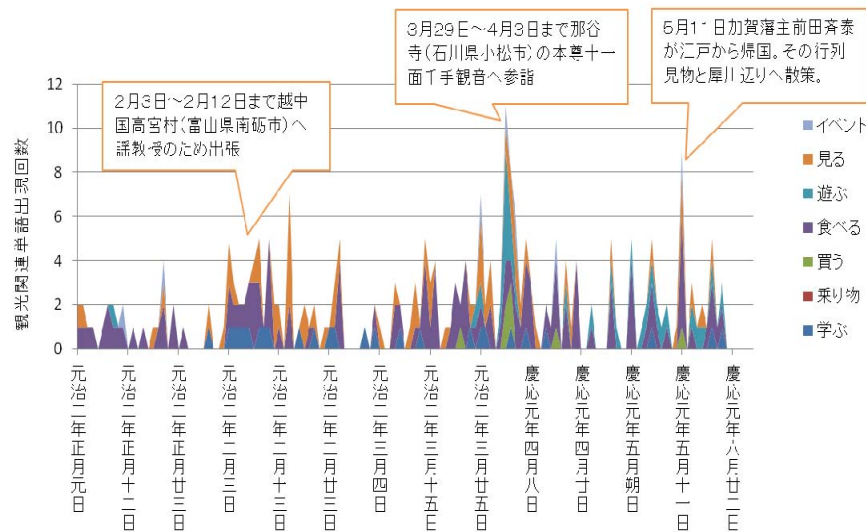


図5 「梅田日記」における観光的特徴の時系列変化
 (元治元年4月～慶応2年6月)

5. 「梅田日記」を題材とした歴史観光ツアーの開催

歴史資料「梅田日記」の観光的特徴に基づき、「梅田日記」を題材とした歴史観光ツアー「幕末金沢の庶民の暮らし-梅田甚三久が描く旅-」を2008年9月27日から9月28日において実施した。歴史資料の観光的特徴を活かした企画の具体的な事例として紹介する。開催した歴史観光ツアーは、1泊2日で石川県金沢市周辺を巡る旅程であり、「梅田日記」の著者梅田甚三久縁の場所や食事・芸能を体験することが目的である。本ツアーの企画に際して、「梅田日記」の観光的特徴の評価を行い、その結果、日記に登場する食事メニューを再現した再現料理の試食や、頻繁に出現する「謡」を実際に体験する謡体験をツアーに取り入れた。具体的なツアー内容は、以下の通りである。

一日目：①金沢駅集合 ②昼食（「梅田日記」再現料理）・歴史研究者による「幕末

金沢の庶民の暮らし」講座 ③東山地区散策 ④ひがし茶屋街散策 ⑤店頭的な茶屋でのお座敷体験と夕食

二日目：①白山市白山比咩神社 ②地元酒造店での酒蔵見学 ③金沢市立中村美術館での謡体験 ④金沢駅にて解散

ツアーの様子を図6に示す。本ツアーの企画プロセスでは、ツアー実施者である旅行者と大学に属する歴史学研究者・観光学研究者などの様々な立場の人間が参加した。知識背景が異なる企画者間で情報を共有し、商品企画を創造する過程において、本研究で提案する歴史資料を対象とした観光的特徴の評価は、より具体的な企画の根拠と新しい視点を認識する上で有用であることが明らかとなった。



図6 「梅田日記」を題材とした歴史観光ツアーの様子
 上：日記に基づいた再現料理 下：「謡」の体験

6. まとめ

本研究では、歴史資料に含まれている観光的特徴・要素を客観的に把握するための評価について提案を行った。そして、歴史資料「梅田日記」を事例として、観光情報分類に登録された単語の出現割合および傾向を評価し、客観的かつ具体的な観光的特徴を明らかにした。今後の課題としては、歴史資料の電子化および多様な歴史資料への対応が挙げられる。本研究では、「梅田日記」を対象に観光的特徴の評価を実施したが、その他の歴史資料に対する同手法の適用可能性について検証を行う必要がある。特に、一般的な歴史資料・文献の現状を鑑みた場合に、それらが翻刻および電子化され、計算機上で扱うことができる状況は極めて貴重である。そのための検証データとしての歴史資料が不足しており、早急に地域の歴史資料の電子化を実施する必要がある。また、本研究において定義した歴史観光単語分類については、単一の歴史資料を基に単語の定義を行っており、地域や時代を反映した単語の多様性については考慮していない。また、その他の歴史資料に必ずしも観光的な要素が含まれているとは限らない。

さらに、本研究では、観光関連単語の抽出を行ったが、名詞間の関係や文脈の構造的解析については行っていない。文脈の把握を行う際には、形態素解析による品詞の特定を行うことが一般的である。しかしながら、江戸時代以前の文語表現で記述されている歴史資料に既存の形態素解析エンジンを適用した場合には、解析精度の低下が問題となる。さらに、単語表現の曖昧さや翻刻過程における解読ミスによる影響についても十分考慮する必要がある。

今後、これらの点について重点的に研究を進め、歴史資料が現代社会において、より容易かつ有効に活用される環境の構築を目指す。

謝辞 本研究の一部は、平成20年度戦略的情報通信研究開発推進制度（地域ICT振興型研究開発2013）および、国土交通省平成20年度ニューツーリズム創出・流通促進事業によって行われました。関係各位に感謝致します。

参考文献

- 1) 平成17年～20年度観光白書, 国土交通省,(2005～2008).
- 2) 平成17年度学術情報データベース実態調査報告書, 国立情報学研究所,(2006).
- 3) 平成19年度「学術情報基盤実態調査」, 文部科学省,(2008).
- 4) 「菅江真澄の足跡を活かした観光振興に向けて」, 菅江真澄の足跡を活かした地域活性化に関する検討会,(2005).
- 5) 滋賀大学サマーカレッジ平成滋賀塾, <http://www.knt.co.jp/ksb/manabutabi/shiga/>,(2007).
- 6) 堀井洋, 林正治, 権仁洙, 吉田武稔: メタデータ照合型ネットワーク解析システム' MANACO ' を

- 用いた医療情報通信観測に関する提案, 医療情報学技術ノート, vol27, pp.321-326, No.3(2007).
- 7) 戸田智子, 黒田晋矢, 福田直樹, 石川博: ブログにおける多視点からのトピック抽出手法の提案, DEWS2008(2008).
- 8) 古川忠延, 松尾豊, 大向一輝, 内山幸樹, 石塚満: ブログ上での話題伝播に注目した重要語抽出, The 21st Annual Conference of the Japanese Society for Artificial Intelligence,(2007).
- 9) 金城伊智子, 大内東: 北海道観光情報のための Web データ分析に関する研究, IEICE technical report. Data engineering, 101(193), pp.99-104(2001).
- 10) 全国地域観光情報センター「全国旅そうだん」, <http://www.nihon-kankou.or.jp/>
- 11) 長山直治, 中野節子: 梅田日記 ある庶民がみた幕末金沢, 能登印刷出版部(2009).